

落ち葉の処理について

秋になると広葉樹から大量の落ち葉が発生します。山林の落ち葉はそのままだに放置されますが、都市の緑地では回収作業が行なわれます。そうしないと、道路や他人の敷地に舞い込み、生活に支障があるからです。ところが、この落ち葉を木々の根元に集積させている方を見かけます。(写真→)

落葉は自然の山々では長い間に、微生物等によって分解され栄養塩(最終的にリン酸態リン、硝酸態窒素など)になります。湿地では、葦やガマ等が枯れ、それが堆積し、長い間に陸地化していきます。堆積した栄養塩が再び吸収されて、循環するという事は、陸水学の理論で、間違いありません。ただし、それに要する時間は沼が陸地化するほどの長いものとなり、正確にはわりだされていないのです。落葉は粉碎、浸水、土壌中への混入で分解が促進されます。堆肥を作る場合は、湿潤状態で、高温を保ち、嫌気性にして菌による分解を促進させます。



根元に枯れ葉を集めた状態 ↑ 植物に悪影響

単に乾燥した落葉を集積保存しても、***無機栄養塩**までに分解することはありません。そればかりか、落ち葉を1カ所に堆積させることで、**深植え状態**になり根が呼吸できず地表からの水も吸収し難くなります。徐々に木は元気を無くして弱り最悪の場合、枯れてしまいます。(写真の桜は枯れてしまいました。)

また、本来は冬の低温で死滅する害虫を越冬させ、木々に悪い影響を与える事も考えられます。冬のマツに菰を掛ける事は害虫を菰に封じ込めるためです。なお、芝生の上に堆積させると日照を阻害して芝を弱らせ、ササやタケ等の成長を促します。

公園や公共緑地は、自然の山々と違って管理された空間です。都市には都市に相応しい管理方法があります。単純に「自然に近い方法をとれば正しいはず。」という理屈はひとまず棚上げし、**落ち葉は速やかに回収処理する効率的な管理をおすすめします。**



根元に集めた枯れ葉を取り除いた結果、こちらの桜は元気になりました。

***無機栄養塩**: 生物の成長や機能に欠かせない栄養素(リン、カリウム、マグネシウム等)であり、植物はこれらを土壌から吸収して成長します。